

令和3年度

八尾市市民活動支援ネットワークセンター  
運営に係る業務報告書

特定非営利活動法人やお市民活動ネットワーク

= 目次 =

1. はじめに	.....	1
2. 本編【 業務報告 】		
2.1. 中間支援業務		
2.1.1. 情報収集・情報提供業務	.....	2
2.1.2. 社会貢献活動等の支援業務	.....	3
2.1.3. 多様な主体による連携・協力促進業務	.....	5
2.2. 「つどい」の管理運営業務		
2.2.1. 管理運営の時間帯等	.....	5
2.2.2. 管理運営業務の内容	.....	6
2.3. 組織体制	.....	7
2.4. 業務報告及び評価（マネジメントサイクル）	.....	8
2.5. 「つどい」を介して連携につながった相談対応等	.....	18
2.5. 課題と改善点	.....	22

## 1. はじめに

八尾市市民活動支援ネットワークセンターは、平成 16（2004）年 10 月 1 日に市民活動・ボランティア活動の拠点として、市民活動団体と長年の協議のうえ、八尾市が設置しました（愛称は「つどい」）。3 月末現在で、開設から 17 年半になります。

運営は八尾市より「特定非営利活動法人 やお市民活動ネットワーク」が受託しています。

さて、「つどい」は、「多様な活動主体による協働づくりと公益を産み出す中間支援センター」を目指し、市民活動団体やこれから携わりたい方に加え、「多様な活動主体を支援・連携をコーディネートする中間支援センター」として、長年に渡り業務を行って来ました。

今年度より「八尾市 第 6 次総合計画 ～八尾新時代しあわせ成長プラン～」の計画期間となり「つどい」も変化を迎えました。「つながり、かがやき、しあわせつづく、成長都市 八尾」を八尾市の将来都市像として掲げ、その実現に向けて「横断的な視点によるまちづくり」と「共創と共生の地域づくり」を推進する事としています。

さらに「共創と共生の地域づくり」に向けて、対話の場を設け、地域の課題解決や魅力創出の取り組みを総合的に進める「校区まちづくり協議会」が中心に担われます。「つどい」等の中間支援組織は、校区に限らず市内各地域や市外とのネットワークを活用して、外部人材等の紹介や課題解決のヒントとなる情報提供等を行うことで活動支援を行わせていただく事になりました。

引き続き、コロナ禍において緊急事態宣言の発出等により行事の中止・延期がありましたが、八尾市との連携により「校区まちづくり協議会」を対象に、日頃の活動時にリモートを活用している若年層の「つどいスタッフ」が、「Zoom 講習会」「LINE 講習会」等の講師として派遣をしました。時には「つどい」の立場を超えながら、世代を超えて、出張所・コミュニティ推進スタッフとのつながり及び校区まちづくり協議会とのつながりが生まれた 1 年となりました。

20 世紀を知らない 20 代の若年層が活躍する 1 年となり、中間支援組織として校区まちづくり協議会への新しい支援や行政との新しい協働活動の 1 年にもなりました。

元号改元から約 3 年、スタッフの世代交代を進め、若年層への役割分担を含めた世代交代の 1 年となりました。また、昨年 12 月で業務責任者を拝命して 10 年が経ち、世代交代・役割分担の変化を実感できた 1 年でもありました。これらも委託運営団体として「行政主体のまちづくり」から「市民主体のまちづくり」に権限と予算の移譲を促進・啓発する中間支援組織として、組織内の権限と人件費の移譲を有言実行に移した 1 年にもなりました。

今年度から、公募型プロポーザル応募時に提案で掲げたコンセプト「人づくり・人育て」へ向けた業務委託契約（4 ヶ年度）が始まり、その初年度のご報告をさせていただきます。

令和 4（2022）年 3 月

特定非営利活動法人 やお市民活動ネットワーク

理事長 西田 裕

副理事長 兼 事務局長（つどい業務責任者） 新福 泰雅

## 2. 本編【業務報告】

### 2.1. 中間支援業務

#### 2.1.1. 情報収集・情報提供業務

##### (1) 多様な主体による社会貢献活動に関する情報収集

###### ■ 各種活動団体の情報の収集

FM ちゃお「情報プラザやお」の番組収録に出向き、環境活動等に取り組む団体や個人の活動内容を収集した。

###### ■ 交流会開催時の情報の収集

山本コミセンラウンドテーブルを5回開催（内2回はスキルアップ支援）し、参加された校区まちづくり協議会・山本出張所から情報を収集した。

###### ■ つどい井戸端会議（全て Zoom にて開催）開催時の情報収集

毎月1回開催を行い、多様なテーマから参加者の活動内容や意見などを収集した。

###### ■ 『「つどい」の「中環の森井戸端会議」』開催時の情報収集

これまでの中環の森での取り組み、各種団体の活動経過、今後の課題や想いを意見交換や話し合いを通じて情報を収集した。

###### ■ 出張所、各地域の周辺施設等の訪問（7月～12月）

つどいスタッフの学習と各地域にある施設や店舗、事務所等に駐在されている方との関係づくりを目的に実施し情報を収集した。

###### ■ その他の情報収集

八尾市関係の情報収集として、広報・公民連携課から「出前授業や社会教育の講座等に関する情報提供のご依頼について」を収集した。

「プリズム運営ネットワーク会議」に参加し、「プリズムホール」「FM ちゃお」「八尾市観光協会」の近況活動等について情報を収集した。

##### (2) 多様な主体による社会貢献活動に関する情報提供

###### ■ 交流会開催時の情報の提供

- ・ 山本コミセンラウンドテーブルにおいて、八尾市第6次総合計画の情報提供及び「つどい」の取り組む方向性、スタッフが手掛けたイラスト及び掲載したブログ記事の紹介について情報提供を行った。

###### ■ 広報支援・助成金情報の発信

- ・ 広報支援（情報発信の支援）としては、つどいブログ・SNS（Face book・Instagram・Twitter）を使って各種活動情報を発信（51件）。
- ・ 「つどいブログ」での助成金情報の掲載（18件）。

###### ■ 各活動主体が必要としている情報提供

- ・ 個別に対応し情報を提供（9件）。
- ・ 八尾市主催の相談会及び講座のメールでの開催提供の実施。
- ・ 「つどいブログ」等での掲載により説明会の参加者増加につながった。「つどいブログ」の掲載閲覧を機会に「つどい登録団体」へボランティアとして参画につながった。参加者増加や参画といったマッチングの貢献につながる情報提供が出来た。
- ・ コミュニティ推進スタッフからの依頼により「校区まちづくり協議会成果報告会 PR 動画」

のチラシデザイン案を作成し提供した。

- ・ 「つどい紹介関連チラシ」及びスキルアップ支援資料の作成による情報提供を行った。
- コミュニティ推進スタッフ会議への出席
  - ・ 各出張所等への訪問のお礼と訪問時に聞き取った内容や、つどいが現在取り組んでいるスキルアップ支援の事例を発信。校区まちづくり協議会からの「つどい」の需要や、「つどい」の目指す「つどいと一緒に考え、取り組む」というあり方を共有。
- その他の情報提供
  - ・ 取材時に収集した情報からイラストの作成及びイラストの提供を実施。
  - ・ 地域活動に関する情報発信（3件）とそれらを取材時に作成したイラストを八尾市保健センターへ提供。
  - ・ 「つどい登録団体」対象に「登録情報更新（登録団体再確認）」時に取得した SNS のアクセス先（URL）を「つどいホームページ」内の「つどい登録団体情報」に順次掲載。
  - ・ 「つどいパンフレット」を追加で 500 部印刷（4 ヶ年度で累計 5000 部を印刷）。
  - ・ こども政策課の『八尾市こどもサイト「あつまれ八尾っ子！！」イベントカレンダーへの「つどい登録団体」情報の掲載。

## 2.1.2. 社会貢献活動等の支援業務

### (1) 社会貢献活動に関する相談

- スタッフによる相談対応
  - ・ 今年度は、昨年度より相談件数が 21 件減少（▲15.6%）に留まり、114 件となった。

#### <相談業務記録>

相談内容 (複数該当あり)				活動主体								相談分類		
紹介・提案	レクチャー	助成金対応	その他	市民	市民活動団体	地域活動団体	行政	公共施設	事業者	教育機関	その他	設立相談	運営相談	NPO 法人以外
101	7	6	0	42	35	8	8	4	14	3	0	1	2	111
114				114								114		

なお、相談業務記録は前項の「2.1.1.(1) 多様な主体による社会貢献活動に関する情報収集」業務の聞き取りも兼ねてデータベースに入力した。

### (2) 校区まちづくり協議会活動の効果検証支援

- ・ 「つどい」の「中環の森井戸端会議」の開催を通じて、「中環の森」における現状と課題及び「美園小学校校区まちづくり協議会」が活動に参画したことでの変化も含めマネジメントサイクルで検証材料として整理しまとめた。

### (3) 社会貢献活動に係るスキルアップの支援

#### ■ 校区まちづくり協議会等へのリモート講習会・講座等のスキルアップ支援

- ・ 志紀小学校校区まちづくり協議会や山本コミセンラウンドテーブルに参加する校区まちづくり協議会を対象に、講習会として合計3回「つどいスタッフ」が講師で派遣。パソコンやスマホを使用したZoom体験の講習会、LINEの使用、Google フォームとQRコード作成をスキルアップ支援として実施。
- ・ 上記実施が出来たのは、7月に八尾市（委託元）主催で校区まちづくり協議会を対象に開催されたZoom講習会が機会となった。「つどいスタッフ」が携わる市民活動団体での活動時にリモートを活用している体験者として講師紹介を行い、複数の校区まちづくり協議会での実施につながった。
- ・ 高安西小学校校区まちづくり協議会主催のワークショップでは、ファシリテーター講師として派遣。
- ・ これらはリモート講習会・講座及びワークショップの開催を通じて、コミュニティ推進スタッフや校区まちづくり協議会との関係性の構築や連携づくりとして広がった。

#### ■ その他のスキルアップ支援（上掲に関連した内容を掲載）

- ・ 八尾市（委託元）主催による校区まちづくり協議会を対象にZoom講習会の講師派遣（つどい登録団体を紹介し派遣：上掲）
- ・ 安中人権コミュニティセンター主催のZoom講座開催へ向けた打合せ対応
- ・ 八尾小学校校区まちづくり協議会会長にワークショップ・講座でのスキルアップ支援で連携出来る情報を提供
- ・ スタッフ向けに会計と助成金の考えについてレクチャーを実施。
- ・ 講師派遣等の依頼状況の管理・把握として講師依頼等の受付表の作成を実施。

### (4) 社会貢献活動への参加支援業務

#### ■ つどい体験会の開催

- ・ 今年度は、4回開催。引き続き、「特定非営利活動法人自然環境会議八尾」と「エコロジー美園小」との共催により、中環の森において「つどい体験会」を実施する事が出来た。
- ・ 「つどい体験会」では、従来の開催に加えて広葉樹の除伐体験を初めて実施し、河内木綿の栽培で携わっている「美園小学校校区まちづくり協議会」との連携・協力による協働が実現した。

#### ■ 交流会の開催

- ・ 今年度は、計15回開催。

<内訳>

「つどい支援井戸端会議」Zoomによるリモート開催を毎月1回、計12回

「山本コミセンラウンドテーブル」3回（スキルアップ支援での開催2回分を除いた回数）

- ・ 「つどい井戸端会議」では、特にテーマは定めず、協働や活動の悩みを共有した。多岐に渡る内容とテーマから市民主体のまちづくりを意識してもらう機会を提供した。無料版のZoomを活用し、1時間半から2時間の開催の内、3回程度Zoomに入室する練習及びチャレンジを兼ねて開催した。その事でZoomを利用できる参加者が増えた。
- ・ 「山本コミセンラウンドテーブル」では、地域活動団体同士の顔合せの場となり、他の

小学校区での事業の取組み方の共有や、校区まちづくり協議会に関する情報提供に努めた（スキルアップ支援での開催内容は、P3【**校区まちづくり協議会等へのリモート講習会・講座等のスキルアップ支援**】を参照）。

■ その他 参加支援業務

- ・ 八尾市生涯学習センター「かがやき」でのボランティア講座に招かれ、ボランティアや市民活動について説明を行った。

## 2.1.3. 多様な主体による連携・協力促進業務

### (1) 連携・協力のコーディネート

- ・ 相談対応後の経過状況は、今年度の相談対応から団体紹介等によるマッチングが大半であった【マッチング件数：34件】。
- ・ 別途、昨年度の相談対応から団体紹介等によるマッチングもあった【マッチング件数：4件】。

■ 連携・協力に関するその他の事項

- ・ 地域活動団体の座談会に取材兼グラフィックレコーダーとして出席（6月）。
- ・ 「中環の森 井戸端会議」の企画案の作成実施（11月）。

### (2) 先進的な取り組み事例の収集

- ・ 相談対応業務から展開した取り組み事例収集として7月に実施。八尾で市民基金の立上げ検討として「公益財団法人京都地域創造基金」へヒアリングを行った。
- ・ 吹田市及び吹田市立市民公益活動センター「ラコルタ」での地域活動支援について11月に事例収集を行い、「つどいブログ」でも情報発信・提供を行った。
- ・ 3月に吹田市立市民公益活動センター「ラコルタ」へ訪問し、設立経緯のヒアリング、定例のスタッフミーティングへのオブザーバー参加及び施設内の見学を行った。
- ・ 1月に旧植田家住宅へ訪問し、観光案内の取組み及び歴史関連施設間の連携について収集を行った。

## 2.2. 「つどい」の管理運営業務

### 2.2.1. 管理運営の時間帯等

■開館日数 256日

■開館日時

平日（水曜日から金曜日）：10時 ～ 18時

土曜日・日曜日・祝日：10時 ～ 18時

※ 仕様書の変更により、今年度から平日の開館時間が18時までに改定。

■休館日

月曜日・火曜日

年末年始（12月29日から翌年1月3日までの6日間）

市長が特に必要と認める日

### 2.2.2. 管理運営業務の内容

(ア) 登録団体の募集・登録・廃止及び登録団体との連絡に関わる業務

令和4年3月末で265団体 +3（前年度：262団体）

※ 令和3年3月末時点では349団体が登録していたが、内87団体が登録廃止の申請があり受理をされたため、前年度の登録団体数は262団体となっている。

登録団体：7団体、登録廃止：4

登録理由：団体立上げによる登録（以前から携わっているつどい登録団体とは別の市民活動団体として登録及び「つどい登録団体」からの紹介による登録等）

登録廃止：活動休止、団体の解散

（団体名等は、「つどいホームページ」の「つどい登録団体紹介」を参照）

#### （イ）メールボックスの利用団体の募集・受付・廃止及び貸出等の管理業務

メールボックス利用団体数：42団体 ▲10（前年度：52団体）

メールボックス利用申請時にA3用紙まで保管出来る引出の貸出を引き続き実施。

#### （ウ）会議室及び備品（印刷機、コピー機等）の貸出等の管理・保守業務

##### ■ 会議室の貸出等管理・保守業務

各会議室利用団体数

会議室（大）：132団体 +32（前年度：100団体）

印刷室：135団体 +65（前年度：70団体）

曜日別の利用状況

会議室（大）：水曜日＞金曜日＝土曜日＞木曜日＞日曜日

印刷室：水曜日＞木曜日＞金曜日＞土曜日＞日曜日

##### ■ 備品の貸出等の管理・保守業務

各備品等利用団体数

印刷機：126団体 +58（前年度：68団体）

紙折り機：24団体 +18（前年度：6団体）

その他：56団体 +21（前年度：35団体）

※その他＝裁断機、ラミネーター、コピー機、パソコン

#### （エ）印刷機及びコピー機使用料の徴収・提出業務

使用料徴収額 印刷機：¥61,425-（前年度：¥22,395-）

コピー機：¥1,850-（前年度：¥250-）

#### （オ）各団体のチラシ、ポスター等掲示物の受付・掲示業務

郵便物・登録団体のチラシ・ポスター等持込み件数：578件 +92（前年度：486件）

館外配架物の配架部数：2,142部（年間）

館外配架物の配架完了したチラシ・情報紙等：99種

館内配架コーナーの整理を実施（9月・11月）

#### （カ）「つどい」の備品管理業務

備品台帳一覧表と備品現物の照し合せ・確認の実施及び報告（7月）

#### （キ）その他、「つどい」の管理運営のため必要な業務



## ■ 来館者数

年間来館者数 2,379人 +817(前年度:1,562人)

月平均来館者数 198.25人 ▲62.05(前年度:臨時休館期間を除く場合260.3人)

+68.05(前年度:臨時休館期間を含む場合130.2人)

※ 前年度:平日(水～金)の夜間開館の来館者数を含む。

曜日別の利用状況:水曜日>金曜日>木曜日>土曜日>日曜日

## 2.3. 組織体制

### ■ 業務遂行の体制

中間支援センターとしての業務の企画・実施・評価及び「つどい」管理・運営に支障のない組織体制を整えた。勤務体制は、シフトを組み1名以上の体制で常駐。

業務責任者

新福泰雅 (下記の業務担当者も兼ねる)

業務担当者

管理担当:小林永遠・山下琴音(5月～)

事業担当:小林永遠・山下琴音(5月～)・寄川奈緒美(5月～)・武田悠(5月～9月)

連携担当:小林永遠・西田裕

※ 理事長 西田裕は、全体の監督も兼ねる

ボランティア

事業担当:武田悠(4月、9月～)、北邑拓哉(3月)

### ■ インターンシップ対応

- ・ NPO法人ドットジェイピーからの依頼により、8月～9月に2名(米山太一郎・山田真鈴)、2月～3月に2名(山口和真・大崎 英)の合計4名の学生を受け入れた。
- ・ 市民活動・市民主体のまちづくり・中間支援について、マンツーマンでレクチャーを行い、事業立案、業務体験、市民活動団体の活動先の見学等を実施。
- ・ 市民活動・市民主体のまちづくり・中間支援の理解につながり、社会人になっても社会貢献の意識を持ってもらうように意識付けを行った。

### ■ 職員募集の検討及び職員の福利厚生

- ・ 効率性・合理性が多岐に渡った業務を遂行するには必要である。しかし効率性・合理性を優先すると来館対応や協働時の連携等といった対人関係及び活動主体との関係構築の支障をきたす恐れがある。それらを考えた場合、マンパワーが必要であり、職員増員に向けた職員募集要項(案)を作成した。作成にあたって他市町村の中間支援センターやNPO法人が行っている募集要項の事例を収集しながら検討を行った。
- ・ 職員の福利厚生の充実として「中小企業退職金制度」に申請することを決定した。  
※ 「職員」の用語は、フルタイム社員を雇用する意向として用いる。

### ■ 委員の選出

- ・ 「八尾市市民参画と協働のまちづくり基本条例評価委員会」の委員を「つどいスタッフ」から選出を行った事で、委員の世代交代を実現した。

## 2.4. 業務報告及び評価（マネジメントサイクル）

### ■ 行政評価・運営評価に関する必要資料作成・説明協力

- 行政評価・運営評価に関する必要資料作成・説明協力は、8件の対応を行った。

### ■ マネジメントサイクル

- 今期の委託契約期間（令和3年度～令和6年度）から仕様書が改定された。
- これまで「業務報告及び評価」の方法は「目標別PDCAサイクル」であったが、仕様書に定めていた目標が撤廃されたため「対象者別における支援のPDCAサイクル」に改定する。
- 校区まちづくり協議会における活動支援については、仕様書2.における3目（対話の場の創出支援・多様な主体の連携支援・活動効果の検証支援）に分けてまとめている。
- 下表に「仕様書2.活動支援（3目）」と「仕様書（中間支援業務等）」の関係をまとめた。

「共創と共生の地域づくり」の推進		
★	まちづくり目標5「つながりを創り育て自分らしさを大切にしようまち」	
★	まちづくり目標6「みんなの力でともにつくる持続可能なまち」	
★	施策30「地域のまちづくり支援・市民活動の推進」	

対象者別の支援		仕様書 5. (1) 中間支援業務								7.業務報告及び評価		
		①		②				③		(1)	(2)	(3)
		ア	イ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ			
活動支援 まち協	1目：創出	▲		▲		▲	●	●	▲		▲	
	2目：連携	▲	●	▲		●		●	▲		▲	
	3目：検証	▲		▲	●	▲		▲	▲		▲	
活動支援 まち協以外	個人及び事業者や大学等	●	●	▲	▲		●	●	▲			
	市民活動団体	●	●	▲		▲	●	●	▲		●	
	市関係部署及び関係団体	▲	▲	▲			▲	▲	▲			●

※5. (2) 「つどい」の管理運営業務は除く。

**凡例**：仕様書2.「業務の趣旨 校区まちづくり協議会の活動支援（3目）」の項目

#### 1目：対話の場の創出支援

地域の課題解決や魅力向上に向けて、地域住民等が協力してアイデアを創出・実践する場として設立された校区まちづくり協議会に対して、だれでも参加できる開かれた場づくりを支援する。

#### 2目：多様な主体の連携支援

これまで地域のまちづくりに関わる機会が無かった市民や様々な知識やアイデア等を持つあらゆる主体が対話の場へ参加できるよう、校区まちづくり協議会が行う情報発信を支援するとともに、多様な主体による社会貢献活動の情報を提供する。

#### 3目：活動効果の検証支援

校区まちづくり協議会をはじめとする多様な主体が地域課題の解決のために実践した活動の効果を検証し、地域の活動全体を見渡した振り返りを支援する。

**凡例**：仕様書5.「業務内容（1）中間支援業務」の項目

#### ①：情報収集・情報提供

①ア：多様な主体による社会貢献活動に関する情報収集

①イ：多様な主体による社会貢献活動に関する情報の提供

#### ②：社会貢献活動等の支援業務

②ア：社会貢献活動に関する相談

②イ：校区まちづくり協議会活動の効果検証支援

②ウ：社会貢献活動に係るスキルアップの支援

②エ：社会貢献活動への参加支援業務

#### ③：多様な主体による連携・協力促進業務

③ア：連携・協力のコーディネート

③イ：先進的な取組事例の収集

**凡例** ●：大いに関連がある  
▲：関連がある

**凡例**：仕様書7.「業務報告及び評価（マネジメントサイクル）」の項目

(1)：業務実施報告書の作成・提出 (2)：アンケートの実施の現状把握及びコーディネートまたは支援後の状況把握

(3)：行政評価や運営評価実施の必要資料の作成や説明協力

校区まちづくり協議会	
<b>【多様な主体の連携支援】</b> これまで地域のまちづくりに関わる機会が無かった市民や様々な知識やアイデア等を持つあらゆる主体が対話の場へ参加できるよう、校区まちづくり協議会が行う情報発信を支援するとともに、多様な主体による社会貢献活動の情報を提供する。	
項目	「中環の森 井戸端会議」開催における連携支援（開催の必要性と経過）
Plan	「特定非営利活動法人自然環境会議八尾」が中環の森で取り組む「菜の花の栽培」に、美園小学校PTA 部会「エコロジー美園小（こどもエコクラブ）」の保護者と児童に協働で活動を始めて、9年が経過。2012（平成24）年12月からつどい主催（現在は共催）として年間3～4回開催。
	つどいが9年に渡り携わった事で、活動や参画が広がりを見せた（特定非営利活動法人河内木綿藍染保存会の連携及びつどい登録団体申請、特定非営利活動法人八尾市観光ボランティアガイドの会とのつながり、美園小学校校区まちづくり協議会が河内木綿栽培で参画及び協力）。
	菜の花の栽培・河内木綿の栽培以外の体験プログラムを提供する必要性及び「中環の森」の広葉樹が成長し整備する必要性があったことから9月・12月に「つどい体験会 除伐体験」を実施。
	広葉樹の枝切り体験（除伐体験）の実施により、さらに参画・協力の輪が広がる（所有者の大阪府八尾土木事務所、命の輝き共生の森 計画推進協議会（植樹・除草・ビオトープ管理））。
	所有者の大阪府八尾土木事務所がアドプロード協定を結んでいる団体以外に参加する団体が増えている事と、アドプロード協定を結んでいる団体との会議を大阪府八尾土木事務所がコロナ禍により延期している事から、「つどい」で井戸端会議を開催し、連携支援及び校区まちづくり協議会の紹介を含めて計画を行う。
	美園小学校校区まちづくり協議会の協力により久宝園集会所を予約いただいた（2月）。
Do	3月30日に11団体・15名が集まり、井戸端会議を開催した。
	自己紹介と活動内容の紹介、各団体同士での意見交換・情報共有を行った。
Check	自己紹介と活動内容の共有、各団体での課題を共有出来た。
	対話の場を設けた事で、これまでの団体活動の経過や参加者同士の関係性もわかる事が出来た。
	アドプロード契約を結んでいない団体も中環の森での活動に携わるようになった事から、関係団体が一堂に会する場「対話の場」を初めて開催することが出来た。
	八尾市第6次総合計画における「共創と共生の地域づくり」において、校区まちづくり協議会の役割について紹介と説明を行い、共有することが出来た。 （役割：多様な活動主体や個人と一緒に、地域課題の解決・魅力向上へ向けて、「アイデア創出」「活動実践」「ふりかえり」「課題共有」といった総合的な取り組みを行う）
Action	環境と防災と言ったテーマを絞り、かつ中環の森という活動場所を絞った事で、関係団体である市民活動団体・校区まちづくり協議会・行政・八尾市公共施設が集いやすくなった。結果、多様な活動主体による「ふりかえり」「課題共有」を話し合う「対話の場」を生む事が出来た。
	校区まちづくり協議会の役割である「対話の場」（テーマと活動場所を絞った対話の場）の一環にもなる井戸端会議である事を、今後も周知して行きたい。 各団体がアイデア創出を行う必要性を実感してもらうよう、引き続き支援を行い、年1回開催出来るように準備を行う（課題解決へ向けたアイデア創出の場づくりを次回に行いたい）。
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「中環の森 井戸端会議」を開催する必要性に共感する方が少しずつ増えた事で、開催の企画・準備までこぎつけ、開催する事が出来た。</li> <li>コミュニティ推進スタッフと開催の必要性を共有し、テーマを設けた多様な活動主体の集まり及び共通認識の共有（対話の場）を企画できるのは、つどいならではの企画だと共感してもらうことが出来た。</li> <li>校区まちづくり協議会から会場提供をいただき連携が出来た。</li> <li>関係者が一堂に集い、想い・考えを含め活動や課題の洗い出しの連携が出来た。</li> <li>校区まちづくり協議会の役割である「対話の場」の創出を支援する事が出来た。</li> </ul>

校区まちづくり協議会	
【多様な主体の連携支援】 これまで地域のまちづくりに関わる機会が無かった市民や様々な知識やアイデア等を持つあらゆる主体が対話の場へ参加できるよう、校区まちづくり協議会が行う情報発信を支援するとともに、多様な主体による社会貢献活動の情報を提供する。	
項目	「つどい」と「まち協」の協働整理シート作成（情報提供等の支援及び協働活動の状況の把握）
Plan	Zoom 講座や LINE 講座の開催相談や講師派遣依頼が増え、依頼状況や進捗状況等の把握が必要となった。
	すでに案件毎に「依頼管理表」を作成し、案件毎で依頼状況や進捗状況の把握に努めているが、全案件（全体）を把握する一覧表の作成まで行き届いていなかった。
	委託元より、講師依頼の概念ではなく、「つどい」と「校区まちづくり協議会（まち協）」の協働状況を一覧でまとめた表（案）を提示いただき、体裁や入力情報の把握などを「つどい」で確認し第一版として入力することをスタートした。
Do	スキルアップ講座と言った情報提供等の支援や協働活動の状況の把握を表に入力し把握を実施。
	講師依頼以外の協働内容も追加入力した。
Check	校区まちづくり協議会との支援といった協働が一覧性でわかるようになった。
	協働整理シートで、簡単な進捗状況もわかるようになった。
	状況がわかる資料であるため、12月より月報提出の際に添付資料として活用する事が出来た。
Action	対外的に示す資料として、月報提出時以外にも活用や公開方法を検討したい。
	マネジメントサイクルも含めて、協働の度合い（マッチング・連携開始・地域活性化または地域資源の促進）も把握したい。
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一覧で依頼等の途中経過、協働手法や実施概要、実施結果が進捗状況も含めて把握できるようになった。</li> <li>・ まち協との協働に関係しない講座依頼については、スキルアップ支援の月報でまとめていく事で区別する事が出来た。</li> <li>・ 「つどい」と「まち協」の協働整理シートの作成により、委託元との共有化が進むことが出来た、さらに対外的にも示す資料として共有しやすくなった。</li> <li>・</li> </ul>

※ 上記の「「つどい」と「まち協」の協働整理シート」は、P11に掲載。

## 「つどい」と「まち協」の協働整理シート

記載例	校区まち協	協働相手		時期	協働の手法	概要	実施結果
		出張所等	まち協 その他				
		-	福祉	12月	ワークショップ支援	〇〇(株)がファシリで〇〇地区福祉委員会役員を対象としたワークショップを実施。各テーブルでのファシリをつどいスタッフ〇〇人で補助する	各役員が意見を述べるだけでなく、主体的に地域の課題を解決に導く手法の検討にまで踏み込んだ。
その他		安中人コミ	-	来年度	オンライン研修	就労支援事業として定員三名の講座を実施予定。1月19日に3回目の打合せを行い、具体的な研修方法など決定していく予定。	ご要望からの開催であったことから当日も質問が多く、興味関心を持たれた方がほとんどで、またややってほしいとの声もあった。
その他	計6小学校校区「校区まちづくり協議会(山本・南山本・西山本・東山本・高安西・上之島、)」	山本出張所	山本出張所管内まち協	10月	スマホ・オンライン研修	山本管内の複数のまち協の会長からのご要望により実施。スマホでのZoom体験とLINEの団体運営での活用方法をお伝えした。	ご要望からの開催であったことから当日も質問や前向きなリアクションが多く、最終的には参加者の多くがGoogleフォームやQRコードを今後の活動でどのように活用するか等の具体例まで考えておられた。
4	美園小学校校区まちづくり協議会	山本出張所	山本出張所管内まち協 北山本まち協	2月	Googleフォーム・QRコード作成講座	山本管内の複数のまち協の会長からのご要望により実施。Googleフォームの作成方法とその発信方法として活用できるQRコードの作成方法をお伝えした。	ご要望からの開催であったことから当日も質問や前向きなリアクションが多く、最終的には参加者の多くがGoogleフォームやQRコードを今後の活動でどのように活用するか等の具体例まで考えておられた。
4	美園小学校校区まちづくり協議会		〇	9月	実践活動(広葉樹除伐体験)	「つどい体験会」中環の森除伐体験として、美園小PTA部会の保護者・小学生等の枝切り体験に、人的協力として10名が除伐を実施。	地域活動場所として、地域資源の場として認識をされた。
4	美園小学校校区まちづくり協議会		〇	12月	実践活動(広葉樹除伐体験)	「つどい体験会」中環の森除伐体験として、美園小PTA部会の保護者・小学生等の枝切り体験に、人的協力として3名が除伐を実施。	コミセン行事がある中、協力要員を出してもらった。会長も追いかけて様子を見に来ていただいた。協働意識を持ってもらえる。
4	美園小学校校区まちづくり協議会		〇	3月	話合い(井戸端会議)	「中環の森」で活動に携わる関係団体11団体・15名が、初め一堂に集い、想いや考えを含めた活動や課題の話合い、洗い出しを行った。	「対話の場」の創出を支援する事が出来た。全団体が共通する課題を明確にし、全団体共通の課題だと認識する事が出来た。
13	南山本小学校校区まちづくり協議会	-	南山本まち協	9月	ワークショップ支援とグラレコ	まちづくりワークショップの講師の方と共に、テーブルファシリテーターとしてつどいからの紹介という形で登録団体から1名、グラフィックレコーダーとして1名の計2名が参加。	ファシリテーターとして参加したこと1月に高安西まち協主催のまちづくりワークショップのファシリテーターとしての支援依頼につながり、また、グラフィックレコーディングに關しては写真を撮って帰られた方も多く、各会議での新しい手法をお伝えする事ができた。
14	高安西小学校校区まちづくり協議会	山本出張所(黒田氏)	高安西まち協 (藤川氏)	1月	まちづくりワークショップ支援	「全員が本音で話せる関係づくり」「話合いを楽しみたいと思ってもらえかけづくり」を目的にワークショップを実施予定。つどいスタッフ1名が進行と会長と開催までの企画作りの支援。当日は他2名が各テーブルでファシリとして補助	当日は21名の方が参加され、どのテーブルでも疑問やあいまいな点やワークショップを行っていないながら意見の交流を行っていた。実施後のアンケート結果では2回目希望する声を100%でいただいた。
15	志紀小学校校区まちづくり協議会	志紀出張所(鎌尾氏)	志紀小まち協 (参加者)	9月	PCでのZoom講座	2日間に分けてまち協の方対象の講座が実施された。2日目の講師役としてつどいスタッフの3名が参加。	回線の影響により目的であった「Zoomを実際に体験していたとき、苦手意識の軽減」については個人差が出た。
20	高美小学校校区まちづくり協議会	安中人コミ(出口氏)	高美小まち協(参加者)	3月	オンラインレクチャー	Zoomの主権者側・Googleフォームの作り方・QRコードの作り方を、実践しながらお伝えした。レクチャー担当者として、つどいスタッフの2名が参加。	少人数へのレクチャーであったことから、細かい疑問にも対応出来た。また、参加者自身が利用されている端末を使用されていたことから、今後一人でも実践する際のサポートにもつながった。

校区まちづくり協議会	
【活動効果の検証支援】	
校区まちづくり協議会をはじめとする多様な主体が地域課題の解決のために実践した活動の効果を検証し、地域の活動全体を見渡した振り返りを支援する。	
項目	「中環の森 井戸端会議」開催を通じた効果検証の実施（活動の振り返りと協働の必要性）
Plan	「中環の森 井戸端会議」の開催目的は、以下の4点である。 ① 中環の森で取り組む方々との「顔合せ」と「共通認識」を深める。 ② 「顔合せ」と「共通認識」を深め、さらなる協働実践につなげる。 ③ 定期的な「振り返り」や「課題共有」を行い、今後の活動向上につなげる。 ④ 市民主体のまちづくり（新しい公共・共創と共生の地域づくり）を望む「市民」を産み出す。
	開催目的を通じて、参加者・参加団体の「思い」や活動での「効果」と「課題」について、活動を振り返る事を意識しながら、自由にお話・コミュニケーションが出来る場を計画する。
	コミュニケーションを通じて、各種団体が取り組む中での「効果」や「課題」が、他団体の「効果」や「課題」との共通点及び相違点も含めて共有することで、協働の必要性も高めることも計画する。
	実践を行う主体同士での「協力」「連携」及び中間支援としての「支援」で「課題」の改善案や解決策がないか「PDCAサイクル」のActionも意見交換できることも計画する。
Do	3月30日に11団体・15名が集まり、井戸端会議を開催した。
	自己紹介と活動内容の紹介、各団体同士での意見交換・情報共有を行った。 意見交換・情報共有を通じて、課題の共有や課題における共通認識を行った。
Check	課題共有が出来た。特徴的なのは、子どもの参加者数の減少により、参加者が増える活動プログラムを考える必要性がある点。加えて保護者や活動団体には、活動プログラムを考える時間と機会がなかった事も共有出来た。
	全体的な課題点を話し合った結果、全団体が課題を共有・認識することが出来た。主には、高齢化等により各種団体が単独で活動を行うのは限界に来ている点。加えて子どもたちの参加が増える活動プログラムづくりの必要性がある点も共有し認識する事が出来た。
	大阪府八尾土木事務所と各種団体が中環の森におけるアドプロード契約を個別で契約を結んでいるが、将来的には高齢化等により各種団体が単独で活動を行うのは限界に来ている事から、校区まちづくり協議会が「統合型」「補完型」「支援型」といった何らかの支援方法による協働や連携、コーディネートが必要になることも話し合いの中で話題提供する事が出来た。
	「校区まちづくり協議会」は、地域活動団体の中でも唯一、誰もが参画出来、かつ地域の自治・まちづくりを担う公益性を生み出す組織体であり、ひとつの存在意義でもある事を説明する事が出来た。また、森林環境譲与税の財源を活用した条例等の制度整備について、令和4年度から具体的な計画を進めて行く予定であることも情報提供出来た事を踏まえ、校区まちづくり協議会が公益活動の取組み内容や財源において将来的には展開できる可能性もある組織体であることもお話出来た。
Action	美園小学校校区まちづくり協議会の活動や支援に取り組む体制及び運営体制も意識しながら、団体単独ではなく各種団体が役割を分担しながら助け合う事が出来るよう、今後も話し合う必要がある。
	話し合いに向けて、美園小学校校区まちづくり協議会が各種団体への支援方法の検討が必要である（支援方法：統合型・補完型・支援型）。またすでに河内木綿において貴協議会がアドプロード契約を結び支援を行っている事例も踏まえた上で、支援方法の検討の支援と効果検証を行いたい。
	効果検証として、一度、貴協議会の取組みについてヒアリングを行い、今後の活動支援に活かして行きたい。
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>校区まちづくり協議会の活動効果の検証支援の足掛かりとして実験的に取り組む計画を立てる事が出来た。</li> <li>課題共有を行った結果、全団体が共通する課題を「単独で活動を行うのは限界に来ている」として全団体が認識し、共通認識にする事が出来た。</li> <li>共通認識となった課題の打開策を考えるアイデア創出の場づくり支援や、校区まちづくり協議会が行う支援方法の検討など、つどいの支援として次の展開や方向性が見えた。</li> </ul>

★校区まちづくり協議会を含む地域活動団体（自治振興委員会、地区福祉委員会等）

まち協以外の活動支援 【市民活動団体（NPO 法人、ボランティア団体等。「つどい」登録団体に限らない。）】		
項目	取材時に収集した情報からイラストの作成及びイラストの提供（情報発信したイラストの提供と二次利用化）	取材時を基に作成したイラストの二次利用
Plan	イラスト作成が出来る人材が、スタッフとして「つどい」に携わるようになった。 「つどい」の夜間開館がなくなり、夜間利用されたい登録団体の対応が必要になった。 委託運営団体が貸出対応をしている近隣の光専寺をご紹介する際に、貸出し時に取材も兼ねて、会議に同席することで情報収集を行うことを計画した。	緊急事態宣言の発出に伴い、掲示物が減少した。 掲示ポスターの減少で、掲示板の目新しさや変化が乏しい。 取材時を基に作成したイラストを活用し、団体紹介を兼ねて掲示し支援の一環として計画。
Do	4月は延べ4団体（会議に同席）をブログで取材内容とイラストにした絵を投稿。 4月は「つどい体験会」を開催し、共催団体1団体もブログ投稿し、イラストも投稿。	「4月の取材記録」としてA1ポスターとして作成し掲示。 イラストの詳細は、「つどいブログ」へ閲覧できるように、QRコードも掲載した。
Check	ブログ投稿後に、取材先にイラストを提供することを思いつく。 計画外ではあるが、取材先と「つどい体験会」共催団体の5団体へイラストを提供（提供時に広報ちらしや団体活動の説明用にイラストを活用することを提案した）。 5団体の中から、共催団体の自然環境会議八尾が広報紙（かわら版）にイラストを活用し作成。 イラストを団体が活用したことで二次利用化が出来、新しい支援が出来た。	掲示ポスターにしたことで、掲示板の目新しさや変化が出た。
		「4月の取材記録」をA1ポスターで掲載したことを「つどいブログ」等で情報発信が出来ていない。
Action	市民活動団体以外にも、校区まちづくり協議会等にも取材時に協力・支援のひとつとして取り入れたい。	他にPRすべき情報発信があれば、イラスト作成し提供する。
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>取材等も兼ねてイラスト作成するスタッフに携わってもらいたかったが、ボランティアスタッフとして携わる事が減った。体制の確保が難しい。</li> <li>イラストを求める需要の掘り起こしまではいかなかったが、試験的に行い反応があった。</li> </ul>	

まち協以外の活動支援		
【市の関係部署及び関係団体】及び【市民活動団体（NPO 法人、ボランティア団体等。「つどい」登録団体に限らない。）】		
項目	「八尾市市民活動支援基金事業助成金」の窓口対応支援及び相談対応時の対案提示といった支援内容の進化	
	市民活動団体（対案提示及びスタッフ養成）	八尾市コミュニティ政策推進課
Plan	コロナ禍で活動自粛もあり、市民活動団体の活動や資金調達が従来通りには行かなくなっている。	上記助成金の募集をしている委託元が、上記の助成金を主担当をしていた職員が異動により、対応が難しくなっている。
	上記の背景から、今年度は上記助成金への申請相談が 6 件あった（相談 No. 2021-003～005, 2021-009, 2021-011, 2021-013）。	職員向けに窓口対応が円滑に出来るように支援する。 主には、「つどいブログ」で投稿した取材や主催行事の内容を基に、上記助成金の趣旨（目的・あり方）や、趣旨に沿った活動発展や組織基盤の強化につながった団体事例を情報提供することを計画した。
	相談対応時に、申請書類の内容について、「つどい」から書面で対案を提示する対応が、これまで出来ていなかった。対案が提示できることを目標とする。	
Do	上記助成金の趣旨が理解されていない団体については、相談対応時に趣旨・目的を説明した。	「つどいブログ」で投稿した内容を、上記助成金の趣旨や考え方・団体事例を情報提供した（掲載した URL を電子メールで送信）。
	申請書類まで作成した団体については、申請書類を預かり、「つどい」で対案を考え提示。	上記助成金申請の相談対応については、随時委託元へ電子メールにて報告。
	6 団体からの相談対応には、講師の養成といった人材育成、共感・賛同してもらい団体入会による会費収入アップといったことを対応し、相談者へ提案した。	打合せ時に相談対応を報告し、かつ相談対応の内容を基に上記助成金の趣旨を伝えた。また委託元からの制度改定や基盤強化といった助成金の活用等などにも意見を聞き、話し合った。
Check	趣旨を懇切丁寧に説明することが出来た。	相談対応時の情報共有にあたっては、相談記録シートにて文字情報で共有することが出来た。
	上記助成金の趣旨が理解されていない団体が多く、理解に時間を要する団体もあり、今後も趣旨を伝えることが必要。	上記相談記録シートを基に、上記助成金の趣旨が市民活動団体へ理解や周知が出来ていないことを共有することが出来た。
	上記助成金収入で、すべての支出を執行する予算計画を考えていた団体があった。「つどい」からは、助成金事業で団体への入会者の増加による会費収入を得ていくことで、助成金収入では執行できない必要物品を購入する予算計画を提示することが出来た（事業の継続性への提案）。対案の提示では、「つどい」で予算書（案）を作成し書面で示すことが出来た。	左記の予算計画の提示内容及び趣旨に沿った予算の考え方を委託元にも共有することが出来た。
Action	あまり解決策を提示しすぎると、団体で解決策を見出さず、提案通りに申請される危険がある。そのような事があった際に、申請団体が助成金の趣旨や考え方を理解し、自立・継続性・公益性への意識向上を阻害する恐れがある。	近年の応募件数の減少により、ふるさと納税で寄附をされた方々に、応募がなかった場合の説明の必要性が発生する。 そのことから、今後の上記助成金の趣旨を変えずに、有効に寄附金の活用も兼ねた制度変更の検討が必要だと言う意識が、委託元の職員の中で非常に高まった。 検討材料・検討のポイントを整理する必要がある。 引き続き「つどい」で作成した資料の提供及び説明の協力支援が必要と考える。
	相談対応時に若年層スタッフにも同席してもらい、後日、振り返りを兼ねて助成金の趣旨の理解度の確認として出題し、シートに回答を記入してもらった。上記助成金の趣旨が理解できたことを確認したので、今後は趣旨説明程度の相談対応には携わってもらうことにする。	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民活動団体には当助成金の趣旨・目的（自立のため、資金調達先を開拓するため）を周知・ご理解をいただいた。</li> <li>委託元には、制度の変更を検討する必要性をご理解いただいた。</li> </ul>	



★「業務報告及び評価」のPDCAサイクル

業務報告及び評価	
項目	仕様書改定に伴う、PDCAサイクル表の見直し（PDCAサイクルの実施）
Plan	前年度（前期の委託契約）まで「業務報告及び評価」の方法は「目標別PDCAサイクル」を使用。仕様書の「目標」と「中間支援業務等」の関係表を独自に作成し目標別に業務等を当てはめてPDCAサイクルを作成して来た。
	今期の委託契約期間（令和3年度～令和6年度）から仕様書が改定された。
	仕様書に定めていた目標が撤廃され、これまでの「目標別PDCAサイクル」は使用ができない。
	「業務報告及び評価」の方法として、新しいPDCAサイクルの検討及び作成を計画する。
Do	仕様書2.「業務の趣旨 校区まちづくり協議会の活動支援（3目）【以下、「2.まち協活動支援」】」が仕様書に新たに定まったため、「2.まち協活動支援」と仕様書5.「業務内容（1）中間支援業務」及び仕様書7.「業務報告及び評価（マネジメントサイクル）」との関係表の作成を行った。
	仕様書3.「支援の対象」で、校区まちづくり協議会以外の対象者を、上記の関係表に含めた。関係表が出来た事で、「2.まち協活動支援」の3目と、校区まちづくり協議会以外の仕様書3.「支援の対象」の対象者別を加えて、「対象者別における支援のPDCAサイクル」の各PDCAサイクル表を作成した。
Check	「対象者別における支援のPDCAサイクル」にて業務報告及び評価を作成できるようになった。
	校区まちづくり協議会における活動支援については、「2.まち協活動支援」における3目（対話の場の創出支援・多様な主体の連携支援・活動効果の検証支援）に分けて業務報告及び評価をまとめることが出来るようになった。
Action	5月月報より「対象者別における支援のPDCAサイクル」で試行することが出来た。
	支援の対象者別で分けたこと、校区まちづくり協議会の活動支援「3目」に分けたことで、どこを着手しているか、着手できていないかを整理することが出来た。
達成状況	着手出来ていない点が浮き彫りになったので、着手する内容を考える。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>PDCAサイクル表の見直しで、支援の対象者別にマネジメントを行う事に切り替えられた。</li> <li>支援の対象者別、活動支援「3目」で着手の状況が明確に出来た。</li> </ul>

業務報告及び評価	
項目	部屋利用及び設備利用における提出書類の記入の簡素化（利用対応時の効率化）
Plan	つどい登録団体でメールアドレスを申請した団体には、「利用申請書兼利用報告書」「会議室・相談室 利用申込兼許可証」において、「団体名」「団体所在地」「代表者名」「代表者連絡先」を印字した状態で、メールアドレスに投函するサービスを9年前の2012（平成24）年度から行って来た。
	メールアドレスを申請した団体分の「団体名」「団体所在地」「代表者名」「代表者連絡先」を印字した「利用申請書兼利用報告書」「会議室・相談室 利用申込兼許可証」をスタッフがExcelソフトで手入力をしており、登録変更があった場合、メールアドレスの新規申込があった場合に、スタッフの手間が増えるという課題があり、効率化を図る必要があった。
Plan	登録団体のデータベース化を2014（平成26）年9月からFILE MAKERソフトで構築を開始し、2015（平成27）年度に構築が完了した（データベースの完成）。2016（平成28）年度には、つどい登録団体の情報入力を完了し、本格運用を行って来た。
	構築と入力化に主眼し、マネジメント活用・管理に注力しすぎたために、利用する団体の立場の配慮が欠けていた。
Do	そのため「団体名」「団体所在地」「代表者名」「代表者連絡先」が印字された「利用申請書兼利用報告書」「会議室・相談室 利用申込兼許可証」を全つどい登録団体に提供する。
	「団体名」「団体所在地」「代表者名」「代表者連絡先」が印字された「利用申請書兼利用報告書」を印刷できるよう再度計画する。 「金額計算書」の宛名（団体名）も団体名が印字された状態で印刷物として出力できるように計画に盛り込んだ。
Do	「利用申請書兼利用報告書」「会議室・相談室 利用申込兼許可証」をデータベースソフトで「団体名」「団体所在地」「代表者名」「代表者連絡先」を印字した状態で印刷物として出力できるように設計を行った。
	9月30日にプログラムを構築し「利用申請書兼利用報告書」及び「金額計算書」を印字した状態で印刷物として出力することが出来た。 スタッフに出力方法のレクチャーを実施した。
Do	「会議室・相談室 利用申込兼許可証」をデータベースソフトで「団体名」「団体所在地」「代表者名」「代表者連絡先」を印字した状態で印刷物出来るように試験的に開始。会議室利用申込時に活用を始めている。
	部屋利用・設備利用の予約申込時及び当日の利用時において、「会議室・相談室 利用申込兼許可証」「利用申請書兼利用報告書」「金額計算書」を印字した印刷物を10月から提供し始めた。
Check	「利用申請書兼利用報告書」も印字した状態で印刷物として出力できるようにする。
Check	校区まちづくり協議会は、データベースの構築（基礎情報）を行っていないため、従来通り手書きで対応する。
Action	実施途中の中、スタッフがさらに効率よく対応できるように、「金額計算書」の宛名（団体名）も同様に団体名が印字した状態で印刷物として出力できるように設計を行うことにした（年度を変更出来るプログラムも検討）。
Action	「校区まちづくり協議会」の基礎情報を構築する必要性がなかったが、構築することを検討する。ただし基礎情報及び基礎情報以外の構築について、何をデータとして構築する必要があるか、要検討しないといけない。
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>来館者とスタッフとの非接触における窓口業務の効率化へ着手することが出来た。</li> <li>これまでマネジメントが主眼になり、利用団体とスタッフに対しての配慮が欠けていたが、データベースの効率化・合理化により手続き時の負担軽減につなげる事が出来た。</li> <li>「校区まちづくり協議会」のデータベースの構築を考える機会になったが、上記の印字した書類等の印刷物を提供すること以外の目的自身を構築する必要がある。その点を含めて検討する段階までは進めることが出来た。</li> <li>委託元から提示のあった「つどい」と「まち協」の協働整理シートもデータベースの対象として構築する内容・材料だと認識する事が出来た。</li> </ul>

業務報告及び評価		
項目	登録申請書様式改定に伴うデータベース及び出力時の登録情報の改定	相談記録シートの出力用様式の変更
Plan	様式改定にあわせて入力項目の順序変更（公式アカウントの入力の追加はすでに改善済み）。	スタッフミーティング（会議）で、相談業務の共有化を図るにあたり、相談記録シートを回覧することになった。 委託元から説明協力の案件が増え、相談記録シートの共有頻度が増加。
	会員総数の内訳入力の改善。代表者のフリガナ追加。	下記の点で委託元と協議をさらに深めることを計画する。 ・ 「経過・マッチング欄」の掲載を追加。 ・ 「マッチング」→「連携実施」→「地域活性化や活動資源の促進」の協働状況の深まり具合を共有化。
	「情報開示」の「不可」を選択した状態で、新規レコードを設定。	
	相談業務対応時に紹介者情報として提供している「登録情報」を様式改定に伴い同様な体裁で改定する。	フォント変更：14ポイント→9ポイント 掲載内容の順序変更：「内容欄」→「聞き取り内容欄」→「対応欄」→「経過・マッチング欄」に変更（行間指定の変更含む）
Do	12月にデータベース及び出力時の登録情報の改定を行った。	相談記録シートの出力用様式の変更を行った。
Check	SNSアカウント状況等も管理出来るようになり、数量化も可能となった。	掲載順序の変更、出力時の掲載項目の追加により、共有化のしやすくなった。協働状況の深まり具合について議論・判断する資料としても共有しやすくなった。
	拡充した登録情報を出力提供できるようになった。	
Action	つどい登録団体紹介の相談が減少気味のため、出力して登録情報を提供機会が減少気味なので、異なる提供方法が必要。	委託元との共有・スタッフ同士の共有がしやすい分、紙媒体も含めて取り扱いには気を付ける必要がある。
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>データベースソフトの導入から7年半にあたり、徐々に情報・データをデータベースに入力する事で、他のソフトへの重複入力を減らし合理化することが出来た。さらに、様々な出力に対応できることもデータベースの強みとして活かし情報提供の体制が出来た。</li> <li>出力方法の改善を図る中、「つどい登録団体」の「登録情報」の提供回数及び印刷出力回数が減少気味である事に気付くことが出来た。「つどい登録団体」を紹介する頻度が減少しているように、主観的ではあるが対応する側として感じた気付きでもある。</li> <li>コロナ禍前まで件数を伸ばして来た相談件数は需要があると判断して来た。コロナ禍でも利用状況の中で件数の減少が最も少なかった。相談業務は「つどい」の特色として基幹業務として柱になっていた。つどい登録団体紹介の頻度が減少気味である中、提供内容・提供方法の検討が必要。</li> <li>相談業務以外の情報提供や、地域や活動の活性化につながる事や活動資源が集まる事につながるような業務内容を検討する必要がある。</li> </ul>	

## 2.5. 「つどい」を介して連携につながった相談対応等

相談対応後にマッチングした34件を中心に以後の連携につながった件数(13件)を下表に各活動主体別等にまとめた。また、紹介先は11件が市民活動団体であり、1件は校区まちづくり協議会、1件は「つどいブログ」を介した市民活動団体紹介である。

- ※ マッチング：相談内容から「つどい」が「相談者」に団体や個人の連絡先等を紹介（以下、「紹介者」）し、その後、紹介者が相談者からの相談内容に応じてくれた場合とする。また、紹介者として「つどい」も含まれる。
- ※ 連携：マッチング後も、再度、同じもしくは同じような相談内容に紹介者が応じた場合をいう。また、マッチング後も、参画を継続して活動を行っているもしくは活動に定着化した相談内容も含む。連携には、紹介者としての「つどい」は含めない。相談者へ紹介した紹介団体が携わる事で相談案件が解決するような単発的な取り組みは、連携には該当しない。また、相談業務以外でも今後も連携の可能性があるものは、連携にカウントする場合がある。

### ●市民

- ・ 相談 No. 2021-024

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
6/23	マッチング内容	団体紹介後、紹介者からつどいに相談者から連絡があり、団体として対応する事になったと報告。
	連携が出来た理由	同様の相談に対して連携する以前に完結もしくは解決に貢献している。解決実績が地域からの依頼により町会等と協働し発展・継続がされている。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	市民生活・町会等の地域課題におけるノウハウ提供・人員の活動資源が集まった。 (野良猫、去勢・避妊したねこ対応のノウハウ提供、現場対応・ノウハウ提供の時間提供)

- ・ 相談 No. 2021-039

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
8/3	マッチング内容	青パトに乗るための事前講習を受けることが出来、許可証を頂けたと報告があった。
	連携が出来た理由	校区まちづくり協議会が行う青パト事業のお手伝いとして定着し、参画・連携が定着。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1名の活動資源が集まった。 (青パト乗車等へ時間提供)

- ・ 相談 No. 2021-044

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
9/1	マッチング内容	紹介団体に訪問し、毎月1回程の頻度で面会交流ボランティアに参加することになった。面会交流は、愛着障害の予防にもつながると考えておられるので今後の卒業論文の研究にもつながる。また10月には面会交流の研究会にも参加。
	連携が出来た理由	学業の卒研を兼ねて、継続的にボランティアでのお手伝いが定着し連携している。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1名の活動資源が集まった。 (面会交流活動への時間提供)

- 相談 No. 2021-072

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
11/4	マッチング内容	団体紹介後、紹介者から相談者と11/4にこれからの参加方法について相談することになったと報告があった。
	連携が出来た理由	今年に入りウクレレの練習会に参加し始め、現在も継続され参加・定着されている。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1名の活動資源が集まった。 (練習会に参加による時間提供)

●市民活動団体

- 相談 No. 2021-026

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
8/13	マッチング内容	「八尾市子ども・若者育成支援提案事業補助金」として取り組む開催チラシの配架依頼先として「子どもの健全育成」の活動分野に該当しているつどい登録団体のリストを提供した。 結果、5団体が各20枚の開催チラシの配架協力で手を挙げられた。
	連携が出来た理由	配架依頼のつながりが生まれ、今後も各団体へ配架・ポスター掲示の連携を図ることにつながった。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	5団体の活動資源が集まった。 (開催チラシを配架する場を提供) 団体同士で配架協力で助け合うアイディの創出が生まれた。

- 相談 No. 2021-083

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
12/8	マッチング内容	つどいの八尾市制施行60周年記念事業等で面識のあった団体をご指名。「つどい」から取次ぎ、直接電話上で説明等をされた。来年2月に講座を開催し、講師でお招きすることが決まった。
	連携が出来た理由 出来なかった理由	13年振りに協働(連携)が復活し再び継続されたと認識。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体の活動資源が集まった。 (講座講師としてノウハウの提供、時間提供)

- 相談 No. 2021-095

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
3/23	マッチング内容	団体を紹介したことで、収集されることになり、定期的に清掃活動が出来るようになった。
	連携が出来た理由 出来なかった理由	紹介団体の配慮で、継続して地域一斉清掃で収集いただける事により、清掃への参画・連携が出来た。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体の活動資源が集まった。 (清掃後の収集協力によるサービスの提供)

●地域活動団体

- ・ 相談 No. 2021-030

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
8/11	マッチング内容	以前も出演いただいたつどい登録団体「ウクレレハウス」「フラ・ヴィーナス」を紹介し、9/19「敬老の日の集い」で出演。
	連携が出来た理由	単発行事ではあるが複数年度に渡り紹介・マッチング（2015年度も同団体、2016年度には他団体を紹介）。継続した紹介・マッチングをしている事から連携が定着。
	連携の効果・結果（地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる）	1団体の活動資源が集まった。 （行事での出演披露による時間提供）

- ・ 相談 No. 2021-052

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
9/23	マッチング内容	対応者にグラフィックレコーディングやファシリテーター経験者がいるため、経験者2名が所属するつどい登録団体として紹介。チラシの件も同様に対応。9/25に南山本で開催されるワークショップに紹介団体として1名が参加（もう1名はつどいとして参加）。
	連携が出来た理由	単発行事ではあるが、今後もワークショップ等での依頼等の可能性があり、他の案件で来館もあり引き続き連携の継続があると判断。
	連携の効果・結果（地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる）	1団体の活動資源が集まった。 （グラフィックレコーダーとしてノウハウ提供と時間提供）

●行政

- ・ 相談 No. 2020-111（2020年度の相談）

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
5/21	マッチング内容	つどい登録団体2団体を紹介し、校区まちづくり協議会を対象にZoom講座の開催に講師（Zoomを活用経験者）として携わった。
	連携が出来た理由	志紀出張所（No. 2021-043）や安中人権コミュニティセンター（No. 2021-064・065）からの相談対応（Zoom講座の依頼や紹介）など各種団体へのスキルアップ支援の連携が広がっている。
	連携の効果・結果（地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる）	3団体の活動資源が集まった。 （講座での講師による時間提供とノウハウ提供）

- 相談 No. 2021-042

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
9/10	マッチング内容	相談者及び紹介者で顔合わせと打合せを行い、10/9・10/10の相談者主催行事のボランティアで各日4名の計8名が協力した。
	連携が出来た理由	単発行事ではあるが複数年度に渡り、今後も紹介団体に協力・連携の可能性はある。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体の活動資源が集まった。 (行事での出展スタッフによる時間提供) (992円×8時間×4名×2日=63,488円に換算)

- 相談 No. 2021-074

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
10/8	マッチング内容	相談者主催の行事について、対応者から6団体に直接お誘いし、結果3団体が当日参加をされた。
	連携が出来た理由	紹介団体が相談者の行事参加によりつながりが生まれたので、今後も協力・連携の可能性はある。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	3団体(3名)の活動資源が集まった。 (行事参加による時間提供) (992円×3時間×3名=8,928円に換算)

## ●公共施設

- 相談 No. 2021-079

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
11/6	マッチング内容	紹介者が「つどい」で会議室を利用する際に、相談者が訪問し会議を見学し打合せを行った。
	連携が出来た理由	相談者の市民活動推進センターで講座講師による連携が実現。今後も好評であれば、継続的な連携の可能性もあり。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体の活動資源が集まった。 (講座での講師による時間提供とノウハウ提供)

## ●事業者

- 相談 No. 2021-058

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
11/6	マッチング内容	3団体を紹介し、紹介団体からも団体を紹介され両団体でクリスマス会に「絵の本ひろば」を出展した。
	連携が出来た理由	紹介団体とマッチング(クリスマス会で「絵の本ひろば」の出展)し、その後も他分野の内部研修の講師として開催を予定され、連携が進んでいる。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	2団体の活動資源が集まった。 (行事での出展による時間提供と場の提供とノウハウ提供)

●教育機関

- 相談 No. 2021-084/相談 No.2021-093

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
日付不明	マッチング内容	相談 No. 2021-084 相談者の小学校で授業を行う事になった(相談No.2021-093に引き受けたと記録あり)。 相談 No. 2021-093 時期は未定だが「命の授業」を行うことでお引き受けしたとご報告あり。授業内容は、紹介者が別の依頼(相談 No.2021-084)でお引き受けされたことを打合せの際に情報提供し、同じ内容で授業をすることになった。
	連携が出来た理由	同様の内容で出前授業を行う事になり、継続されて連携をされている。今後も毎年依頼を受けて連携が継続・定着される可能性もある。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体の活動資源が集まった。 (授業でのノウハウの提供と時間の提供)

●相談業務以外での連携

- 「つどい」の「中環の森井戸端会議」の開催による連携の実施(課題・共通認識等を深める)

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
3/30	マッチング内容	活動団体及び中間支援を行う主体に振り返りの場・顔見知りの場を提供し、11団体・15名が参加。
	連携が出来た理由	参加者と活動の振り返りから、想いや考えを含めた課題及び協働における共通認識を深めた。 全団場で共通認識を共有する連携が出来た。 美園小学校区まちづくり協議会が開催場所の会場提供をいただいた。 関係者が一堂に集い、想い・考えを含む活動や課題といった洗い出しの連携が出来た。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	11団体・15名の活動資源が集まった。 (想い・考えを含む活動や課題といった情報の提供、人と情報が集まる場を提供)

- 「つどいブログ」の掲載閲覧を機会に「つどい登録団体」へボランティアとして参画

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
2/2	マッチング内容	「ボランやお“わかば”」のボランティア募集を「つどいブログ」で掲載し、それを機会にボランティア参加の申込みがあった(学生1名)。
	連携が出来た理由	2月2日には印刷作業と会議へ参画、3月2日も継続してボランティアで学生が参画している。また4月6日の会議も参加を継続される予定。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1名の活動資源が集まった。 (印刷作業・会議への参画による時間提供)



## 2・6. 課題と改善点

### ■ マネジメントサイクルからの課題

- ・ 相談業務を主軸に活動主体もしくは個人をつなげ、マッチング化し、連携促進に向けて取り組んできた。しかし、相談対応時に団体等の紹介を行いマッチングした事で相談内容が解決してしまい、連携促進まで協働が進む相談案件が非常に少ないことが分かった。
- ・ 若年層スタッフを中心にコミュニティ推進スタッフや校区まちづくり協議会からの依頼によるリモート等の講座・講習会の講師派遣によるコミュニティ推進スタッフや校区まちづくり協議会の関係構築が出来た。来年度は、講師派遣を通じてどのような連携につながるかニーズを探るなど模索する必要がある。
- ・ 協働の度合い（マッチング・連携開始・地域活性化または活動資源の促進）を測定できる検証方法も構築して行きたい。
- ・ 「八尾市市民活動支援基金事業助成金」の相談対応が多かったが、応募要項の趣旨と外れた内容が多く趣旨が伝わっていない。また校区まちづくり協議会との連携・協働につながる提案も少なかったため、今後は地域の活性化や地域課題解決に必要なもしくは足りない地域の活動資源を探し出す、その傾向がわかるものを情報収集し提供したい。
- ・ 上記の情報収集や協働の度合いも含め構築できるデータベースの検討も図りたい。

### ■ 「つどい」を介して連携を通じた活動資源と課題

17 件の連携を活動資源の要素別にて集約（複数該当・次頁の表参照）した上で、課題をまとめる。

- ・ 連携時に提供いただいた内容が、時間提供 17 件中 14 件だった。人が最も連携時に協力しやすい提供だと言える。金銭提供は 0 件であった分、時間を提供する事で最低賃金と時間数と人数をかけると金銭という数字で目安として把握することが出来る。
- ・ 場所の提供は 17 件中 3 件であり、市民活動団体の配架提供や地域活動団体の会場提供であった。各種団体から時間提供以外の資源提供方法である。件数が少ないため、資源の提供方法の掘り起こす事で件数を増やすよう工夫をしたい。
- ・ 金銭提供・物品提供は 0 件であり、金銭提供・物品提供の件数を増やすよう工夫したい。
- ・ その他は 9 件ある内 7 件がノウハウ提供だった。若年層が多く構成している市民活動団体が活用している Zoom の提供、マジック講師・聞き書き講師の派遣によるマジック・聞き書きの提供、「絵の本ひろば」と言う書籍物品を含めた居場所づくりのノウハウ提供、グラフィックレコーダーとしてグラフィックレコーディング実演提供、出前授業による命の授業の提供を行った。また、井戸端会議で顔を合わせ、膝の突合せを通じた情報の提供もあった。
- ・ 継続した連携による協働づくりとして、どのような活動資源を求めており、求めている活動資源を提供できるように提供別で整理を行いたい。

相談 No. 等	提供内容・提供方法					
	時間	金銭	物品	場所	その他（左記以外）	
						内容
No. 2021-024	●				●	ノウハウ提供
No. 2021-039	●					
No. 2021-044	●					
No. 2021-072	●					
No. 2021-026				●		
No. 2021-083	●				●	ノウハウ提供
No. 2021-095					●	サービスの提供
No. 2021-030	●					
No. 2021-052	●				●	ノウハウ提供
No. 2020-111	●				●	ノウハウ提供（2020年度の相談）
No. 2021-042	●					
No. 2021-074	●					
No. 2021-079	●				●	ノウハウ提供
No. 2021-058	●			●	●	ノウハウ提供
No. 2021-084/093	●				●	ノウハウ提供
中環の森井戸端会議				●	●	活動や課題といった情報の提供
団体へ参画	●					
合計	14	0	0	3	3	

- 全体の課題（連携開始を促進し、地域活性化または活動資源の促進に向けて）
- 対話の場の創出支援（「井戸端会議」での対象者を掘り起こし）
  - ・ 「共創と共生の地域づくり」へ向けて、校区まちづくり協議会是对話の場を提供する役割がある。「中環の森井戸端会議」の開催で対話の場づくりの支援につながった。他の小学校区まちづくり協議会でのワークショップ等の支援も対話の場づくりとして支援出来た。
  - ・ このような対話の場は、多様な主体が参画出来るように、市民活動団体等にも連携を促進する目的で井戸端会議を開催する必要がある。市内公共施設も対象とする。旧植田家住宅訪問時に収集した歴史関連施設間の連携といったテーマ別での開催も検討する。
- 対話の場の必要性と意義を提供（連携の必要性を実感する共通認識を広める）
  - ・ 対話の場の必要性・意義を井戸端会議で提供し、連携づくりにつなげるよう開催して行く。連携の必要性は「中環の森井戸端会議」で共通認識となった「高齢化等により各種団体が単独で活動を行うのは限界に来ている」事を、他の井戸端会議にも共通認識として広める。
- 井戸端会議の進め方（順序立て）
  - ・ 対象者を掘り起こし、井戸端会議の開催の必要性が生まれれば、初回はこれまでの活動の「ふりかえり」と「課題共有」を通じて、上記の共通認識化を図る。
  - ・ 2回目以降の開催では、連携促進に向けた具体的な打開策を考える対話の場づくりとして「アイデア創出」を行い、「実践」につなげて行くように順序立てを行いたい。
  - ・ 連携促進に向けて、関係団体・個人が持っている活動資源を洗い出し、お互いの足りないもしくは求めている活動資源を結び付けて連携を図る。下記に述べるヒアリングの実施により、効果検証を円滑に行える準備を行い、連携促進に寄与したい。
- 井戸端会議の開催時における効果検証の実施（効果検証の準備としてヒアリングの実施）
  - ・ 今年度は「校区まちづくり協議会の効果検証支援」の業務として「つどい」の「中環の森井戸端会議」で検証支援の足掛かりとして実験的に取り組む程度に留まった。
  - ・ 井戸端会議の開催に向けて効果検証の検討材料としてヒアリングによる活動の「ふりかえり」や「課題共有」を、実施主体と中間支援の各立場で検証してまとめた。
  - ・ 「井戸端会議」での「ふりかえり」「課題共有」「アイデア創出」の意見交換の際に、ヒアリングの結果内容を資料提供する事で、今後の活動検討や検証に活用したい。また校区まちづくり協議会では「わがまち推進計画」の策定もあり、ヒアリング資料も検討時に活用してもらいたい。
- 連携を図る活動資源の結び付けにおいて
  - ・ 各種団体や個人の活動に対する支援方法として、校区まちづくり協議会が検討し支援が出来るように、活動資源の掘り起こしの準備の支援を検討したい（各種団体の助け合いやコーディネートも話合いで検討）。校区まちづくり協議会も含め市民活動団体等、八尾市公共施設等にも対象に連携を図るように結び付けを行いたい。
- つどいの人員体制及び連携促進に向けた役割分担
  - ・ 連携促進に向けて、引き続き、リモートやSNS等のツール提供を通じて、校区まちづくり協議会等とつながりが生まれる機会をつくる。このような「広げる」役割を若年層スタッフが中心に分担し、現地での対応を行いマッチングまでを図ってもらう。
  - ・ コミュニティ推進スタッフの支援を要せず運営している校区まちづくり協議会を中心に、井戸端会議を通じて共通認識を広げ、連携開始につなげる。このような「深める」役割を業務責任者等が中心にピンポイントで取り組む。
  - ・ 人員不足により他の業務が手薄のためフルタイム社員を志す職員を募集し増員を図る。